

共同運営部門：血液浄化センター

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
腎臓内科部長 兼血液浄化センター長	坂口 俊文
腎臓内科 副医長	高山 東仁
腎臓内科 医 員	矢野 卓郎
腎臓内科 医 員	田村 渉
看護師	植田 くみ子
看護師	前中 公紀
看護師	岩田 奈緒子
看護師	福井 典子
臨床工学技士	奥田 重之
臨床工学技士	金口 優生

—概要—

今年度はセンター内での「医看工」の連携および近隣の透析施設との連携が進んだ一年であった。

—実績—

透析導入件数	56件
血液透析施行回数	2,123回
血漿交換その他	8件
腹水ろ過濃縮再静注(外科)	14件
末梢血幹細胞採取(血液内科)	6回

—今年度の成果—

導入患者への事前訪問による緩和

昨年からはじめた看護師、臨床工学技士による患者訪問は定着し、一定の成果を得ている。

フットチェック

昨年より透析導入時に両下肢を写真に収め、専用のノートPCにファイルメーカーを利用してデータ保存、管理し、いつでもスタッフ全員が入力、閲覧できるシステムとしている。このシステムは使い勝手の良いものになっている。このファイルメーカーによる管理のシステムを2017年の透析医学会の演題として登録した。

シャントエコー

当院は透析導入患者さんが年間50例前後存在する。また透析に必要なシャント血管造設術およびPTA(経皮的血管拡張術)を行っている。

シャント流量の定量的な評価は今日必須となりつつある。昨年度から臨床工学技士によるシャントエコーは各人の技術の向上し、当院の透析シャントPTAに欠くべからざるものとなった。

またシャント血管エコーは、流速の測定や狭窄の評価だけでなく、これまで不可能だった深い血管や複雑な走行の血管の穿刺も可能とする。医師ばかりでなく、臨床工学

技士、看護師も穿刺の難しい血管の穿刺は、エコーガイド化で行うようになった。

災害対策を見据えた近隣施設との連携

昨年の段階では近隣の透析施設間の連携のみに終始していたが、本年度末に劇的な進展があった。医師会、泉佐野保健所、近隣の全ての市町村に御協力をいただき、市町村や医師会と被災状況をウェブツールで共有し、リアルタイムの透析施設の被災状況が把握出来ることになった。

—来年度への抱負—

数年前から毎週月曜日、透析患者に関する多職種検討会を行っている。医師、看護師、臨床工学技士だけでなく、病棟看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士が参加している。現在でも専門分野の立場から、意見を聞け、大変ありがたい会ではあるが、これをもっと充実したものになりたいと考えている。

本年は透析医学会に医師1演題、臨床工学技士3演題を登録した。今後も各職種で臨床に直結した研究を進めていきたいと考えている。そのため今後も血液浄化関連の各種学会・研究会・講習会への参加は、腎臓内科・血液浄化センターの研究費から全面的に支援していきたい。

災害対策連携は今年度大きな進歩をみたので、今後は協力地域を広げていきたいと考えている。